



上石副市長による記念式典の祝辞

■小樽発明協会創立100周年記念式典・記念講演会
北海道地方発明表彰式の終了後、小樽発明協会創立100周年を記念した式典・講演会が開催された。式典は、小樽発明協会の鳥村会長による主催者式辞に始まり、小樽市の上石副市長、当協会の岩井副会長による祝辞に続いて、小樽発明協会の発展に寄与した井上二郎氏、西條文雪氏に感謝状が贈呈された後、小樽発明協会の田中副会長による主催者謝辞が述べられた。

続いて、北海道大学大学院の野口農学研究院長・農学院長・農学部長による「ロボット農機の進化とスマート農業の未来」と題した講演会が行われた。



諸岡審査第二部長による特許庁長官賞の贈呈

■北海道地方発明表彰式
表彰式は、北海道発明協会の小砂会長による開式の辞に始まり、当協会の岩井副会長による挨拶、小樽市の上石副市長による歓迎の言葉に続いて、NPO法人北海道産業技術支援協会の尾谷代表理事から選考経過が報告された。

続く表彰では、(地独)北海道立総合研究機構の橋場参生氏ら四名に文部科学大臣賞、(株)明治の城ノ下兼一氏ら四名に特許庁長官賞(株)ニッコーの佐藤一雄氏に中小企業庁長官賞が贈られる等、各賞が贈呈された。

その後、特許庁の諸岡審査第二部長北海道総合政策部の吉田科学技術振興担当局長から来賓祝辞をいただいた。

最後に、受賞者を代表して文部科学大臣賞を受賞した伊福部氏による謝辞が述べられ、北海道発明協会の近藤副会長の閉式の辞をもって盛況の内に終了した。

北海道地方発明表彰式

開催日 10月26日(木)
場所 グランドパーク小樽(小樽市)
実施 北海道発明協会・小樽発明協会

日本弁理士会会長賞を受賞して

「柱直立型屈曲板部を用いた自動収納型防雪柵」
(特許第6319717号)

受賞者の声



理研興業株式会社
代表取締役副社長
柴尾 幸弘

「発明のポイントをお教えください」

本発明は、積雪寒冷地で使用される防雪柵に関するもので、従来型が課題としていた広幅員道路や路肩のない箇所への設置、コスト削減、施工性、安全性の向上、交通障害の軽減、特殊現場への適応を解決するものです。

「受賞のご感想をお願いします」

この度は、日本弁理士会会長賞という栄誉ある賞を受賞し、大変光栄に存じます。関係者の皆様に心から御礼申し上げます。弊社は昭和30年に創業し、国内で初めて防雪柵の特許を取得し、数々の製品開発を行ってきましたが、本発明の特許はその集大成と言えます。弊社の発明の原点は現場であり、製品開発の基礎はお客様からの要望やクレームによって得られた一人一人の声にあります。今後も、私たちはその声を叶え、お客様の笑顔を見ることができるよう、課題解決に向けた製品開発と知財活用への促進に努めてまいります。今後とも一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

「苦労した点はどこでしょうか」
従来の防雪柵は折り畳み際に手動であり、高所作業が必要でしたが、作業員の高齢化や人手不足を解決するために自動化が必要でした。また、防雪効果を高めるために、支柱を屈曲させる方式が選択されていましたが、支柱をレールの代わりに防雪板を昇降させることは困難でした。そこで、弊社は防雪板を蛇腹状に組み、支柱の屈曲部をリンク機構にして蛇腹状に組んだ防雪板の形状を開発しました。これにより、自動化が可能となり、作業時間の大幅な短縮と作業員の安全を向上させることができました。